指導案⑧

**地震防災　学習指導案**

年　月　日（　）第　校時

学年　　小学校全学年

児童数　　　　　　　名

場所　校内・グラウンド

指導者　　　　全教職員

**１　題材名**　「防災訓練をしよう」

**２　題材について**

　（１）児童・生徒の実態

（小学校の立地、児童の人数、特徴などを書く。）

　（２）題材設定の理由

　　　地震防災の学習は以下の内容を基本とする。

* ハザードの理解（なぜ地震が発生するのか）
* 地震への備え（ハードとソフト）
* 地震発生時の対応（直後の身を守る方法から避難、救出・救助、支援、避難所生活など）

災害発生時の対応は、机上での学習だけではなく、訓練を繰り返して慣れ親しむ必要がある。地震を想定した避難訓練とその後の防災訓練を組み合わせることは、こどもたちにとっては災害時の対応を学ぶ機会であり、教職員にとっては学校防災マニュアルの点検の場でもある。

**３　評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 集団活動や生活への  関心・意欲・態度 | 集団の一員としての  思考・判断・実践 | 集団活動や生活についての  知識・理解 |
| 評価規準 | 自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。 | 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。 | 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。 |

**４　事前の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
|  |  |  |

**５　本時のねらい**

　こどもたちにとっては、地震時の身の守り方や落ち着いた避難行動といった日頃の学習内容を、総合的な防災訓練を通して定着させる機会となる。

学習歴の浅い下級生を上級生が援助することで、下級生にとっては防災学習が身近なものとなり、上級生にとっては学習した内容の定着にもつながる。

総合的な訓練を通して防災の意識を高め、今後の学習意欲を引き出したい。

　教職員にとっては、避難訓練は防災管理の再点検の場でもある。訓練の結果を評価する場を設けたい。

**６　本時の展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指すこどもの姿と評価方法 |
| 導入 | 地震時に身を守る方法、落ち着いた避難の方法について理解する。 | 各教室で、地震時に身を守る方法、落ち着いた避難の方法について説明する。  ・地震時の「４つの危ない」  「落ちてくるから危ない」「倒れてくるから危ない」「移動してくるから危ない」「割れるから危ない」  ・安全な場所で身を守ること  ・揺れが収まり、教職員が避難経路の安全を確認してから、並んで落ち着いて避難すること  ・点呼をすること | 中学年、高学年（すでに学習した者）はその内容を思い出し、理解しなおしているか。  低学年（まだ学習していない者）は避難の原則を理解しているか。 |
| 展開１（避難訓練） | 地震発生の合図（放送やベルなど）とともに教室内の安全な場所（机の下、窓から離れたところなど）で身を守る姿勢をとる。 | 地震発生の合図を決めておく。実際の地震は合図もなくやってくることを徹底して教える。 | 落ち着いて安全な場所で身を守る行動がとれているか。 |
| 揺れが収まった後、教室内の安全な場所で待機する。 | 揺れが収まった後（訓練なので教職員が指示）、教室内の安全な場所で待機させる。  あらかじめ決められていた係が、避難場所までの安全な経路を点検する。 | 教職員の指示を守り、冷静に待機できているか。 |
| 教職員の指示に従って落ち着いて避難する。  避難完了後、点呼して教職員に連絡する。 | こどもたちを安全な経路を通って避難場所（グラウンドや体育館など）まで誘導する。  避難完了後、速やかに点呼する。  事前に逃げ遅れる子ども、けがをするこどもを決めておき、教職員で対応する訓練を取り入れてもいい。 | 教職員の指示を守り、冷静に避難できているか。 |
| 展開２（防災訓練） | 班に分かれて各ブースを回り、防災について学ぶ。 | 防災訓練の内容を検討し、消防、病院、行政の危機管理課などと連携して、こどもたちが体験的に学べるブースを準備する。  以下、訓練ブースの例。  ・初期消火（水消火器など）  ・けがの手当て  ・AED、心肺蘇生  ・ジャッキを使った救出  ・けが人の搬送  ・非常食づくりと試食  ・防災絵本の読み聞かせ（高学年が低学年へ）  ・防災に関連したゲーム  ・家具の固定方法  ・牛乳パックを使った耐震  ・非常持ち出し袋  など、体験・ワークショップを取り入れる。 | 各ブースを回って積極的に学べているか。  　高学年は、自分たちが学ぶだけではなく、年下のこどもたちの世話ができているか。 |
| まとめ | アンケートに答える。  体験した内容をプリントに書き出し、感想を書く。  その時どんな家に住んでいるか、その特徴を挙げる。 | アンケートを準備し、すべてのこどもたちに回答させる。教職員による訓練の評価材料とする。  中学年以上には感想文を書かせる。  高学年は次回の防災訓練に向けた提言（改善点、アイデアなど）を書かせる。 | アンケートに誠実に答えているか。  　訓練の様子に具体的に言及し、前向きな意見が書かれているか。  　実施可能で成果が上がりそうな提言がなされているか。 |

７　事後の指導

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
| 感想を書く。学べたこと、次の訓練で取り入れるべき内容、変更すべき内容などの提案も書く。 | 感想文を書かせる。とくに、学べたことや今後の訓練への提案を肯定的に書かせたい。 | 活動をていねいに振り返ることができているか。  新しい提案ができているか。 |

以上